



シカゴのビリケン・パレードに参加したオバマの支援者一同が行進。Obamaと書かれた右下に彼の一貫したスローガン Yes We Can が見える（2004年8月14日）

私は、シカゴの「黒人」コミュニティで、75年間続き今や250以上の組織がエントリーするパレードを見ていた。すると“*We want Obama!*”と連呼する声が響く。この年、この「黒人」コミュニティーを主たる票田とするイリノイ州議会議員バラク・オバマが、連邦上院選に初出馬し初当選を果たすのである。私が見たのは、その選挙運動の一幕だった。

オバマは、コロンジア大学卒業後シカゴで「黒

寄稿

# 「黒人」大統領バラク・オバマ誕生

1月20日、米国史上初の「黒人」大統領が誕生する。オバマ大統領誕生の歴史的背景を、アメリカ史

1月20日、米国史上初の「黒人」大統領が誕生する。オバマ大統領誕生の歴史的背景を、アメリカ史の樋口映美文学部教授に寄稿していただいた。

人」コミュニティーの貧困問題に取り組み、その後ハーバード大学ロースクールで学位を得てシカゴにもどり、政界に入っていた。そのオバマが、の1月20日に大統領に就任するのである。

■ オバマの「アメリカ」

オバマが全国に初めてデビューしたのも04年。彼は7月27日の民主党全員会議で基調演説の大役を果たした。

国大会で基調演説の大役を果たした。

自分はハワイ生まれ

れ 仕 就 こ つ

で、父親はケニア人留学出身、母親はキャンザス州出身、と出自を示したうえで、貧しくとも高等教育を受けた自分が今この晴れ舞台に立っていると語り、「黒人」の成功例を自ら示した。

しかも、アメリカだからこそなし得た成功だと強調し、独立宣言の「人はみな平等である」という原則と憲法が保障する「幸福の追求」を、実現されるべき万人共通の「夢」だと指摘して「アメリカのみなさん、私たちにはできるのです」と呼びかけていたのである。個人的な話から誰もが共有できる「アメリカ」の理想へと聴き手を魅了していく彼の「調にさまざまな人々が興奮を覚えた。

その主張は、4年後の大統領選でも変わらなかつた。

大統領選挙の年齢、人種/エスニシティ別出口調査  
出典: *New York Times*, 5 November 2008より作成。

年齢/人種/エスニシティ	オバマ支持 (%)	マケイン支持 (%)
60歳以上	50	50
45-59歳	50	50
30-44歳	50	50
18-29歳	65	35
アジア系	65	35
ヒスパニック	70	30
黒人	90	10
白人	45	55

# 国民意識に “変化”期待

# アメリカ社会の「人種問題と歴史」の視点から

**オバマの混血性**

民主党もオバマの混血性を前向きに打ち出した。2008年8月25日から28日にわたる民主党全国大会の模様はテレビで放映され、私もそれに見入った。

組織を1994年に設立したジエシー・ジャクソンには、「黒人」の権利を求めた1960年代の反体制的なイメージが漂うが、1961年生まれのオバマにはそれがない。肌の色で「黒人」と見なされていても、現在は

■キングの「夢」実現

人種間結婚がどこでも法的に認められているからか、彼に白人の家族がいることが堂々と披露され、同時に人種の垣根を越えて「オバマ」に投票してもよいと促されているのである。

1960年 権運動はキンニセイに収斂され、われ、その熱年1月の第3祝日とする法

# キングの「夢」実現

「夢」は「アーヴィング・ラムゼー」の案が可決され、9月、ミシシッピ州議会で「アーヴィング・ラムゼー法」が制定された。この法律は、アーヴィング・ラムゼーが州議員として活動した結果である。

州の公  
は、「自分  
うに『黒  
補になる  
なかっ  
つぶやい  
州は選挙  
イン支持  
いつであ

2009年  
年明けとなつて  
08年第3四半期  
速し始めたグローバル  
経済が、一段  
てゐるからこそ  
一つの時代でも、  
局に直面すれば  
するほど、個々  
への苦行力も

は多難な繼之助（1827～  
た。20 868年）、小林虜  
半期に減郎（1828～18  
ローバル 7年）、山本五十六  
と後退し 884～1943年  
ある。い などである。彼らに  
する人物評は未だに  
様であるが、生き方  
は共通点がある。

たのも、多難な現在が  
求められる人物像と彼が一  
致するからであろう。

## 多難な時代に生きる



いとの返事であった。  
寂しい限りであるが、  
このように、物事に何  
も関心を示さない学生  
を散見する。国宝級の  
寺を訪れても、工場見  
学に誘つてもである。  
多難な局面にある現  
はな人生しも

の浸透と歴史教育の成果を基盤に、「オバマ」を新たな「黒人」英雄に仕立て上げる装置であったともいえよう。

はさかねほって方へ  
系の血が混じつて、  
「黒人」であると定  
されて以来、混血も「黒  
人」と分類されてきた。」

ルールでオバマも  
人」と見なされてい  
しかばくまでB氏

れば  
めら  
「人」  
その  
「黒  
る。  
が問  
メリカ史を担当。  
学博士。歴史学専攻でマ  
に『アメリカ黒人と北部  
産業』、訳書に『奴隸制  
の記憶』『貧困と怒りの  
アメリカ南部』など。文  
部省圖書監修官。

「アメリカ史で有名な人物は誰か」という問いに、高校生2000人中、「トマス・エジソン」と答えた者は18%。ところが、元奴隸身分で解放活動に身を投じた「ハリエット・タブマン」、1950年代の「ロザ・パークス」、「キング牧師」と答えた者がそれぞれ44%、60%、67%で、「黒人」が上位3人を占めた。前代未聞の結果である。

こうしてみると、オバマにキングを重ねた作戦は、キングのカリスマ性

さを物語っている。ただ、諸手を挙げて喜べない人々もいる。同じく昨年9月のこと。「黒人」公民権活動家B氏は、「オバマが本当に我々のことを理解してくれることを疑わしい」と言い、

「まあ、ミシェルがいるけどね」と付け加えた。オバマの妻ミシェルには奴隸身分の祖先がいるから、信頼できると言うのだ。

アメリカでは17世紀半ば、奴隸制形成期のヴァージニアで、祖父母の代

題にしてているのは、肌の色や血ではなく、それに負ってきた過去である。その奴隸制時代からの歴史をオバマは背負つていて、とB氏は言いたくなかったのだろう。

人種の壁を超えてアントラに変化をもたらそうと訴えるオバマ。彼を中心とする人々は多様だ。この彼の登場で国民意識にも変化が期待される。アメリカの歴史に通底する「人種」へのまなざしそれほど変わり得るのぢ